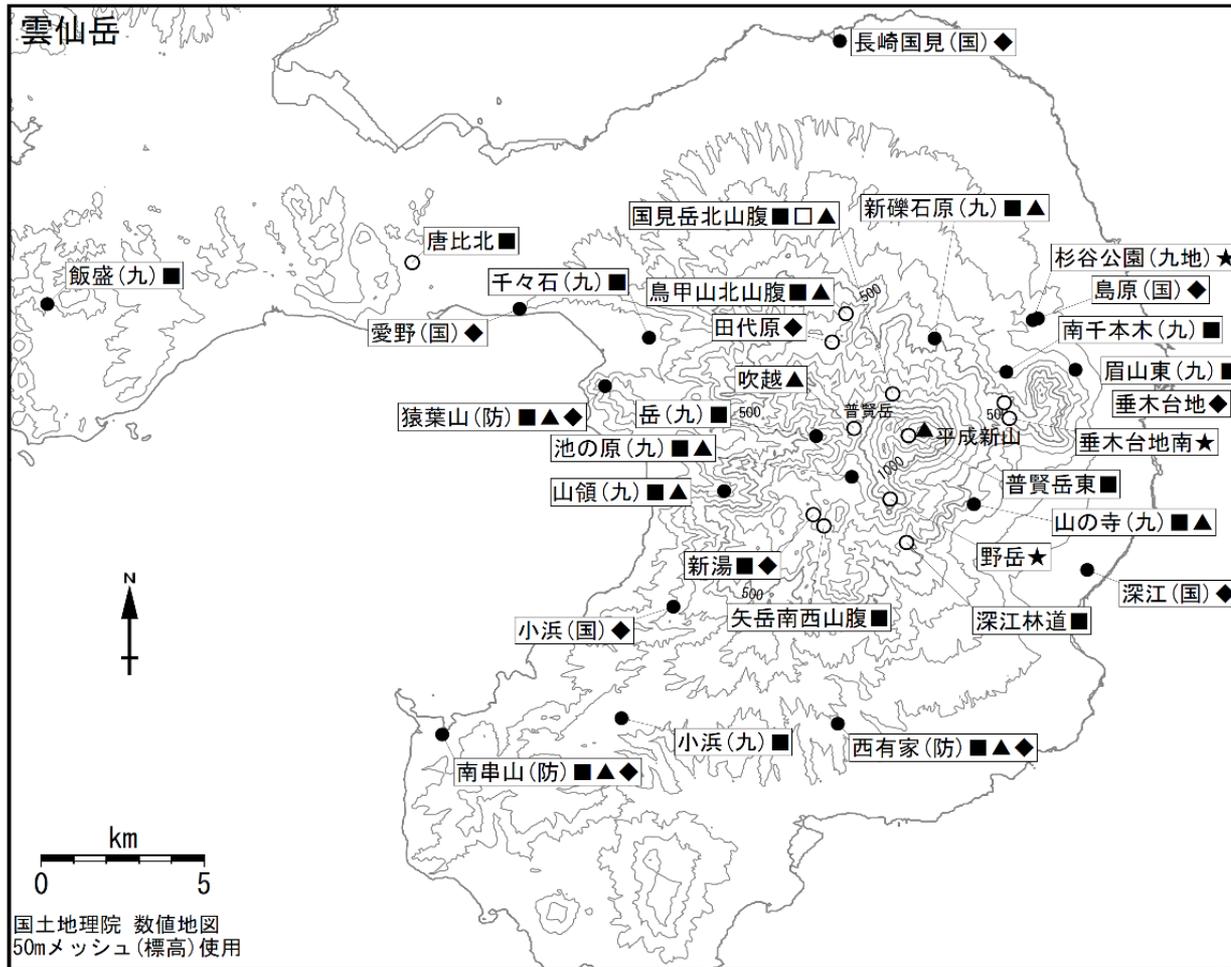


雲仙岳の火山活動状況

令和6年度 雲仙岳火山防災協議会

令和7年3月28日

長崎地方気象台
福岡管区気象台



観測点配置図

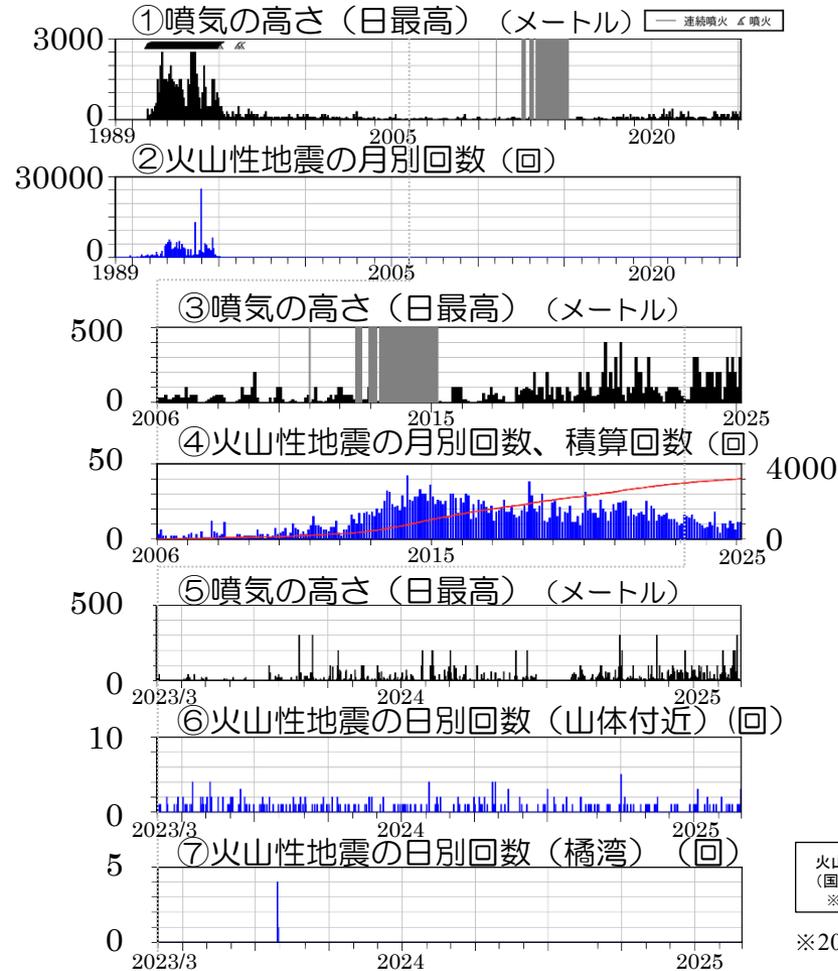
白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点を示す。

(国)：国土地理院、(九)：九州大学、(防)：防災科学技術研究所、(九地)：九州地方整備局

観測点名称の横の図形は観測機器を示す。

■：地震計 □：空振計 ◆：GNSS ▲：傾斜計 ★：監視カメラ

火山活動経過図



雲仙岳 平成新山の状況 (2025年2月24日)

2024年以降、白色の噴気が最高で噴気孔上300mまで上がりました。(野岳監視カメラによる)

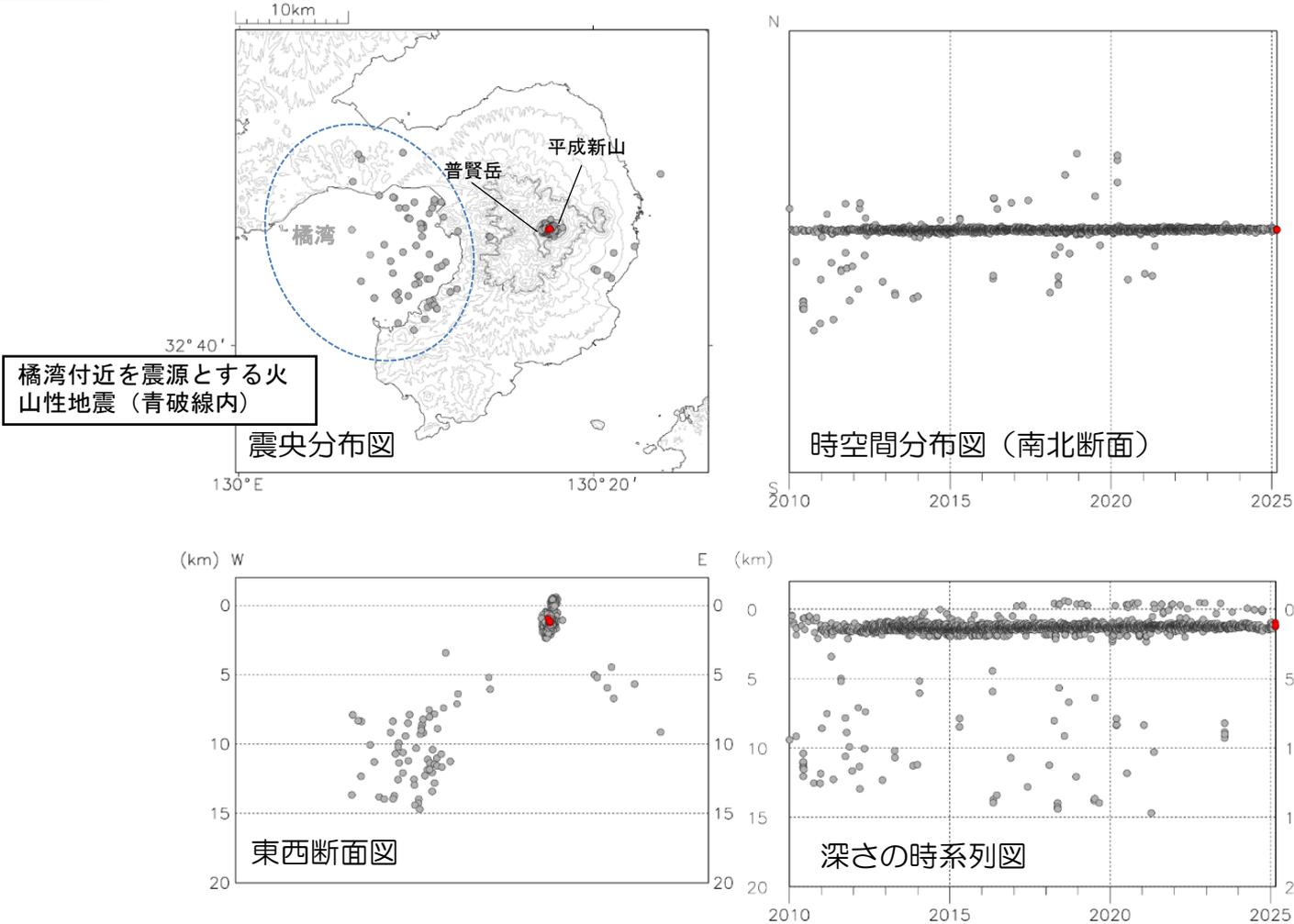
火山性地震の計測基準
(国見岳北山腹)上下動 2 $\mu\text{m/s}$ 以上 S-P 2.5 秒以内
※2012/8/31まで (矢岳南西山腹)上下動 5 $\mu\text{m/s}$

※2025年2月までのデータで作成しています。

火山活動経過図 (①・②1989年～ ③・④2006年～ ⑤・⑥・⑦直近2年間)

- 白色の噴気が時々観測されています。2025年2月まで最高で噴気孔上300mまで上がりました。
- 普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmを震源とする火山性地震は、2010年以降やや増加しています。
- 火山性地震の回数は1日あたり数回程度と少ない状態で経過しています。
- 橘湾付近を震源とする火山性地震は、2024年1月以降、観測されていません。

火山性地震の発生状況

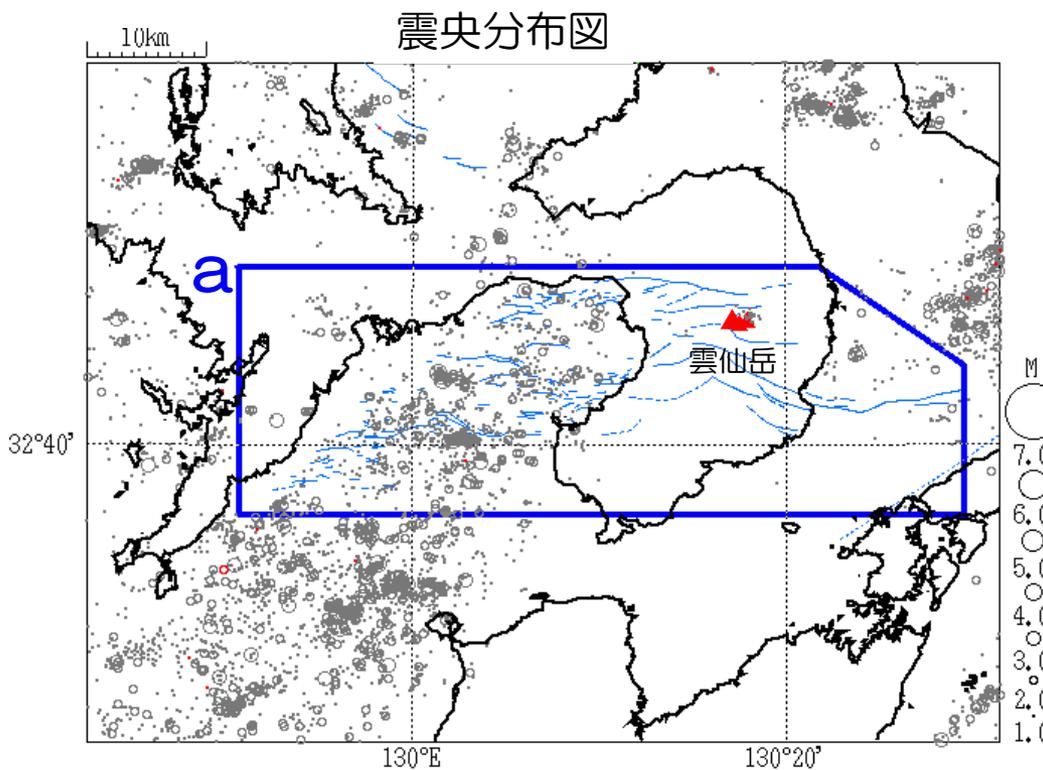


火山性地震の震源分布図 (2010年1月~2025年2月)

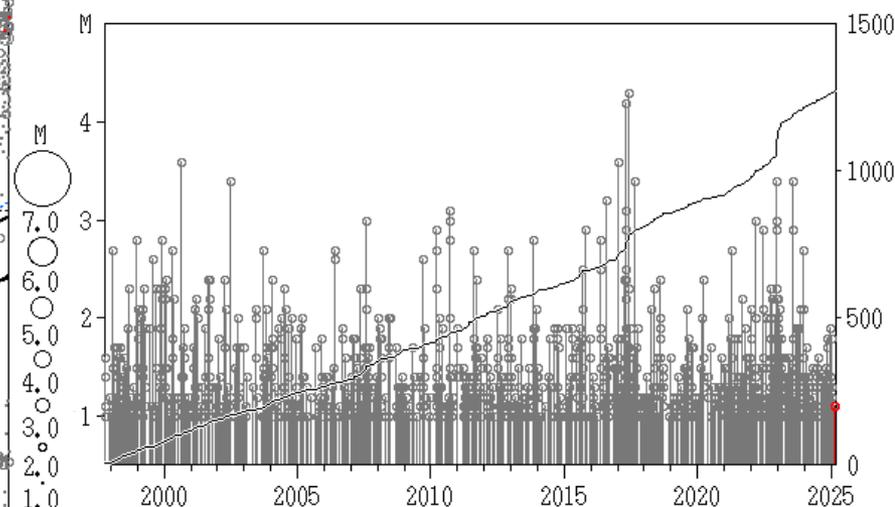
赤丸 (●) は2025年2月、
灰丸 (●) は2010年1月~2025年1月の地震を示しています。

【2024年1月以降の状況】

- 普賢岳から平成新山直下の深さ0km付近と深さ1~2kmに分布しています。
- 橘湾付近を震源とする火山性地震は観測されていません (青破線内)。



左図 a 領域の地震活動経過図

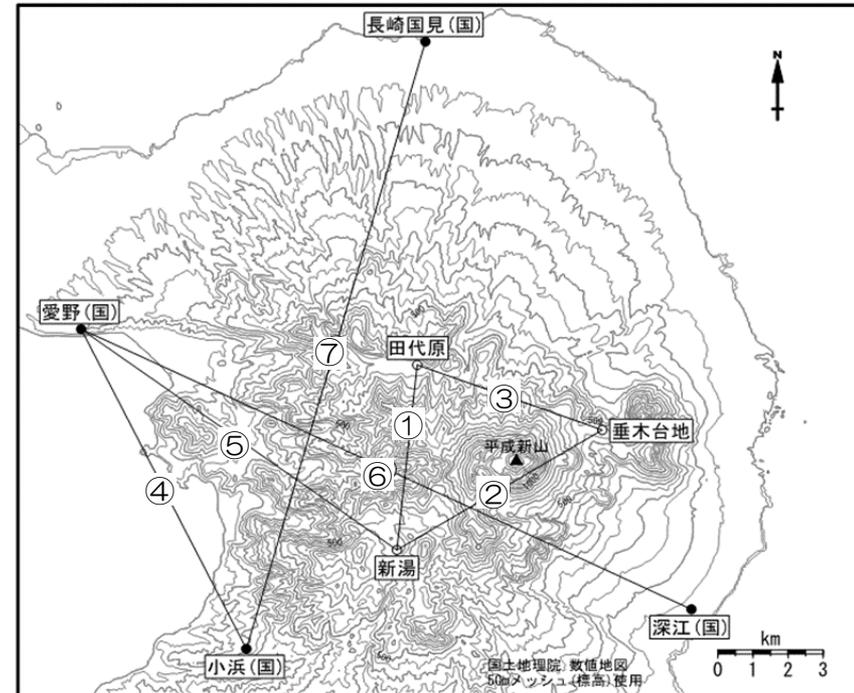
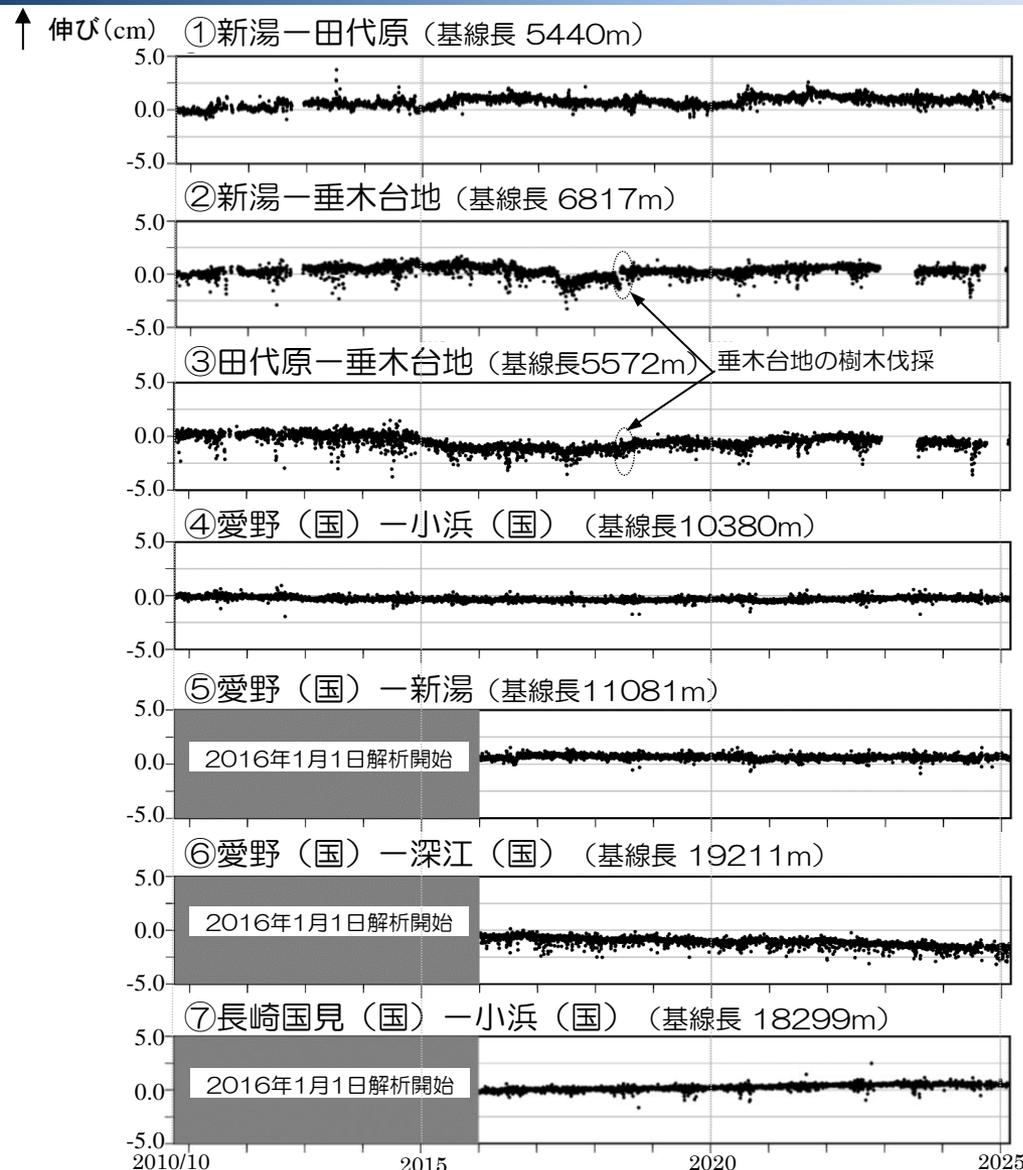


雲仙岳周辺の地震活動（1997年10月～2025年2月）

赤丸（●）は2025年2月
灰丸（●）は1997年10月～2025年1月の地震を示しています。
※マグニチュード1.0以上の地震を表示しています。

- 雲仙岳周辺及び雲仙断層群では、定常的な地震活動で経過しています。
- 雲仙岳の火山活動に変化はありません。

GNSS連続観測の基線長変化



GNSS連続観測点と基線番号

白丸 (○) は気象庁、黒丸 (●) は国土地理院

GNSS連続観測の基線長変化 (2010年10月~2025年2月)

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められません。

- 火山活動に特段の変化はありません。
2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmを震源とする火山性地震が時々発生しています。
- 2007年（平成19年）12月1日に発表した噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）以降、予報事項に変更はありません。